

討論で方針補強

新幹線・静岡・名古屋が地方大会開催



国鉄労働組合
東海エリア本部

東京都港区新橋5-15-15
交通ビル4階
発行責任者 渡邊良成
編集責任者 高木宏



あいさつする静岡地本・杉本委員長

新幹線・静岡・名古屋の地方本部大会が開催されました。それぞれの大会では、『職場での要求獲得の闘い、職場三大要求運動、駅無人化反対の取組み、組織拡大の取組み』などの発言で運動方針が補強されました。

静岡地本

杉本委員長は、「職場の闘い、安全安定輸送とローカル線、JALや社保庁などの争議支援、消費税やオスプレイの配備、原発廃炉などに奮闘し、最重要課題の組織拡大に主力を挙げよう」と挨拶しました。

討論は、「乗務員の要員問題、出向先の労働条件、専任社員と定年問題、ローカル線を守る闘い、職場三大運動の成果、異常

時のCTC指令の指示のあり方、組織拡大の必要性」などの発言がありました。

植田書記長は、「仕事の中心に座り、職場の不満を要求に変え、要求獲得を目指して闘う。特に、JR不採用問題を闘った成果と教訓を生かしあらゆる争議行為に連帯する。また、労働者・国民的課題についても闘う。その為に、組織拡大は、覚悟を持って行おう」と集約しました。

名古屋地本

討論は、「専従配置、役員定年の年齢引き上げについて、組合員の高齢化・減少による組合運営について、再出向の問題、出向者の組織化の必要性、掲示版の活用・設置を求めた取組み報告、起床報告での労基署申告

オスプレイ配備で抗議声明・東海本部

東海本部は10月3日、野田内閣に対しオスプレイの沖縄普天間基地配備はもとより、日本のどの地域での訓練飛行も許さないことを強く訴え、国民の生命を危険にさらすオスプレイの配備を許した野田内閣を強く抗議する、と表明しました。(全文は東海本部ホームページ)

の成果と今後の進め方」などでした。

また、「中央リニア新幹線の国労の考え方を求める」意見がありました。

駅無人化反対の闘いについては、「自治体要請や地域でのビラ配布の教訓を生かす。地域住民の声を反映し運動を継続することが必要」と発言がありました。

伊藤書記長は、「利用者アンケートを生かした要求づくりが必要。労基署申告の教訓を生かし、タダ働きをなくす運動に繋がりたい。組織拡大は、まず声を掛け、一歩踏み込む決意を固めよう。また、震災復興での政治

の混迷、改憲の動きの強まっている。労働組合の役割を果たし、地域・職場から運動を強めよう」と集約しました。

新幹線地本

討論は、「大阪では『3・12 統一行動』で280人が参加し、13春闘が闘えた。熱中症対策を強化してほしい、定期健康診断と運転適正検査の時間を勤務時間にするべき、専任社員になる上で会社に希望が言える場が必要、掲示板の設置のあり方について」発言がありました。

また、災害問題について、多くの組合員から発言があり、「乗務員の運用に問題がある。昨年台風・大雨の教訓が活かされていない、ゲリラ豪雨時の水位確認の安全は保たれるのか」などでした。

佐藤書記長は、「組織強化・拡大は難しさや葛藤があるが学び、頑張っていこう。安全問題や労働条件改善では、調査・点検活動で要求の根拠を明確にして行くことが重要。全職場で職場三大要求や仕事総点検運動を進めよう」と集約しました。

入院、地震、火災、交通事故…一度も経験しない人はいない。

自分の身に起こってからでは遅いのが災害です。何事も備えあれば憂いなし。あなたや家族の幸せを自然災害や人災から守るために、しっかり組み合わせて幅広く保障します。



火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/生命共済/入院共済

オスプレイ配備撤回を

日米両政府は10月6日、米軍の垂直離着陸機MV22オスプレイを、沖縄・普天間基地に全12機強制配備しました。

オスプレイは、開発段階から事故が相次ぐ問題や構造的な欠陥が指摘されています。

強制配備をした普天間基地周辺には保育施設や学校、病院、公共施設が林立しており、訓練ではルール違反が日常的に行われており1日も早くオスプレイの配備を撤回すべきです。

最も危険な軍用機が早くもルール違反!

オスプレイは、ローターを上に向けた垂直離着陸モード(ヘリモード)で飛行中に両エンジンが停止した場合、安全に着陸するオートローター



岩国で試験飛行するオスプレイ

シオン(自動回転飛行)の能力が欠如している欠陥機です。今年4月のモロッコ事故、6月のフロリダ事故は、ヘリモードから固定翼機モードに切り替える最中の事故でした。モロッコ事故では、米軍や日本政府は「ベテラン指導操縦士のミスで、コンピュータが落下中の機体制御ができず墜落した」としています。日本で行う飛行訓練は、未熟な操縦士が飛行させるので更に墜落の可能性は高まり危険極まりないものです。

岩国での試験飛行では、市街地や学校の上空を飛行し、沖縄、普天間では、市街地上

空をヘリモードで飛行し、原則米軍基地や区域内に限るなどとした日米の運用ルール違反を繰り返しています。

抗議・抗議・抗議!

9月9日に行われた沖縄県民大会に10万人が参加し、岩国基地から普天間基地への配備反対は沖縄県民の総意である事を示しました。

9月30日には、岩国市内でオスプレイの本土初飛行に抗

名古屋 JAL闘争支援! 行動で手応え

9月30日と1日、JAL不当解雇撤回支援愛知の会が宣伝と要請を行い、国労名古屋地本も参加し闘争に弾みをつけました。

【9月30日】国労名古屋地本も加盟する、JAL不当解雇撤回支援愛知の会が、JR名古屋駅前で行いました。



行動参加の名古屋地本組合員



国労広島から歌で訴え

「世界一危険だとされる普天間に配備するのは言語道断。一刻も早く試験飛行を中止させ、沖縄配備の撤回まで日米

台風が接近する状況の下、JAL不当解雇撤回訴訟原告10名と愛知の支援団体と個人約40名による宣伝行動が、11時から1時間行われました。通行する人は驚くほど多く、横断幕を大きくかかげ、歌声の皆さんの声が駅前に響くなかでビラを3000枚配布しました。

両政府に働きかけ、粘り強く取り組む」と声明しました。また、10月9日には、仲井真沖縄県知事と佐喜真宜野湾市長が野田総理大臣に対し、オスプレイ配備見直しと普天間基地撤去を迫りました。総理大臣は、配備を撤回せず、「理解を求めるとして平行線に終わっています。日米両政府は、一日も早くオスプレイの配備撤回と普天間基地を即時撤去すべきです。学生から「JALってなに!」と質問があり、この不当解雇の事実を、もっと広く知らせる必要性を実感しました。原告団員は、「ビラの受け取りが良くびびくり!、悪天候のなか、多くの人に応援していただいて感激」と、行動の手応えを得ました。

【10月1日】

4班で愛知県内の郡部を廻り、各団体等に支援を訴えました。夕方は、毎月「1の日」宣伝に合流し、JR金山駅前原告団全員がマイクで解決への思いを通行人に訴えました。

「がん」の保障 <生きるためのがん保険Days(デイズ)>		「生きる」を創る。Afiac	
保険期間:終身(抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢:0歳~80歳、スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合		生きるためのがん保険DAYS(デイズ) スタンダードプラン	
初めて診断確定されたとき		がんの場合 一時金として 100万円 上皮内新生物の場合 一時金として 10万円	
入院したとき	入院給付金 1日につき	10,000円	
通院したとき	通院給付金 1日につき	10,000円	
手術したとき	手術治療給付金 1回につき	20万円	
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金 1回につき	20万円	
抗がん剤治療を受けたとき	抗がん剤治療給付金 1カ月	10万円 (すべての保険期間を通じ通算600万円まで)	
(上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金 1カ月	5万円	
プレミアサポート		訪問面談サービスと専門医紹介(このサービスは、株式会社法研が提供するサービスです)	
◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。			